地域社会が"成長の限界"を乗り越えるとき

国土開発、地域開発を越えた"新たな共"の形成 2019年3月27日(水)

鳴尾 眞二 (株)鳴尾総合研究所 顧問

「戦後"国土開発と地域開発"の限界と可能性」 論文の設計図

「戦後、国工開発と地域開発、の限界と可能性」 調义の設計凶				
はじめに		(本論部分)		結論部分
1. 開発思想	2. 国土計画の <u>系譜</u>	3. 地域開発の <u>系譜</u>	4. 地方自治(住) <u>民参加)の系譜</u>	5. 政策論 (提言)
, <mark>1 - 1.</mark> 豊かさ、便利さ、効率 <u>を追求した近代の軌</u> <u>跡</u>	2-1. 明治維新以来の日 本の近代化の過程 (経済開発、国土開 発の視点から):原稿 あり	<u>3-1.</u> <u>地域開発政策の軌</u> <u>跡</u>	<u>4-1.</u> 地方分権の政治的 側面	<u>5-1.</u> <u>目指すべき社会はど</u> <u>こに?</u>
<u>1ー2.</u> <u>技術・エネルギー</u> <u>開発の系譜</u>	2-2. 戦後の我が国の 開発行政 (1次〜7次国土開 発計画):原稿あり	3-2. 都市開発の系譜 『最適都市を考え る』、マンフォード、 コルビュジェ、ジェ イコブズ他	4-2. 住民参加(自治) の系譜『戦後日本 住民運動資料集 成1~8巻』、『地域 再生の社会学』	<u>5-2.</u> 社会力の系譜『社 会力の時代へ』
(キーワード)	<u>2-3.</u> <u>地方から見た国土</u> <u>開発:</u> 中国地方の開発 の歴史から	3-3. 農村開発の系譜 『限界集落の真 実』、『シリーズ 地域の再生 1~21 巻』	4 <u>-3.</u> 地方財政の系譜 『地域再生の経済 学』	5-3. 「社会実験」から 「社会実装」へ 一地域社会からの 展開
(新儿/価値観)			公助一共助一自助の再構築 地方分権制度 <u>地域</u> の意識改革	
技術革新と制度改革	過密∶限界都市	過疎:限界集落	公論	熟議型民主主義)
近代:中央集権型政策・巨大集中技術 地域再生の取り組み(事例) 市場原理から社会原理へ				
小規模·分散型技術	の可能性	地域社会再生(地元	学等の挑戦)	競争から共創へ
	はじめに 1. 開発思想 /1-1. 豊かさ、便利さ、効率を追求した近代の軌 1-2. 技術・エネルギー開発の系譜 (キーワード) 真の豊かさ (新しい価値観) 技術革新と制度改革 近代:中央集権型政策・	1. 開発思想 2. 国土計画の系譜 1-1. 2-1. 豊かさ、便利さ、効率を追求した近代の軌跡 2-1. 野治維新以来の日本の近代化の過程(経済開発、国土開発の視点から):原稿あり (経済開発、国土開発の表譜 1-2. 技術・エネルギー開発の表譜 開発の系譜 (1次~7次国土開発計画):原稿あり 2-3. 地方から見た国土開発:中国地方の開発の歴史からの歴史から (本一ワード) 国土計画・中央開発主導が通常:限界都市	はじめに (本論部分) 1. 開発思想 2. 国土計画の系譜 第十二1. 3. 地域開発の系譜 豊かさ、便利さ、効率を追求した近代の軌跡 2-1. 野治維新以来の日本の近代化の過程(経済開発、国土開発の視点から):原稿あり 地域開発政策の軌跡 1-2. 技術・エネルギー開発の系譜 [最適都市を考える]、マンフォード、コルビュジェ、ジェイコブズ他 [別条計画]:原稿あり 2-3. 地方から見た国土開発:中国地方の開発の歴史から [別果集落の真実]、「シリーズ地域の再生 1~21 巻」 (キーワード) 真の豊かさ (新しい価値観) 技術革新と制度改革 国本:限界都市 [過疎:限界集落] 近代:中央集権型政策・巨大集中技術 地域再生の取り組み(事例)	はじめに

エネルギー自治

ポスト近代の力学:問われるのは地域社会の自治力

1. 成長の限界:社会と自然の自己再生力

社会は、政治・経済・社会システムが 相互抑制的に活力を持っているが、 自然環境への破壊が進行。

社会の自己再生力

安心・安全な社会、自然環境と人間社会が調和した、活力ある共生社会。

自然環境の自己再生力

強い

成長の限界

社会、自然環境共に 危険域。早急に手を打 たねば、再生不能に陥る。

社会も自然も再生不能。この状況に至ると、

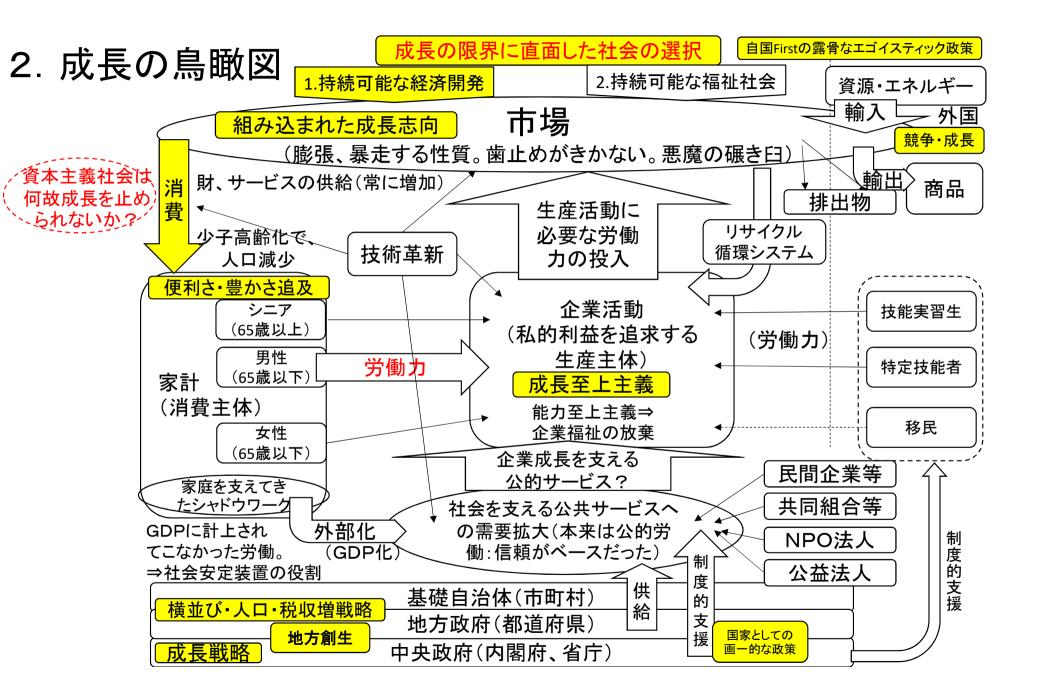
弱い

人類の危機的状況。

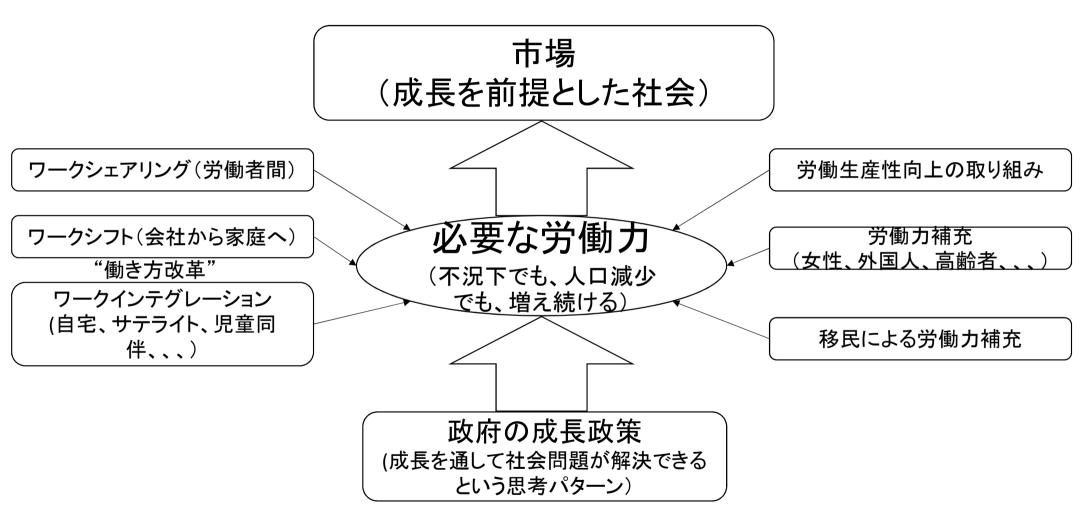
(自然環境との調和を優先)

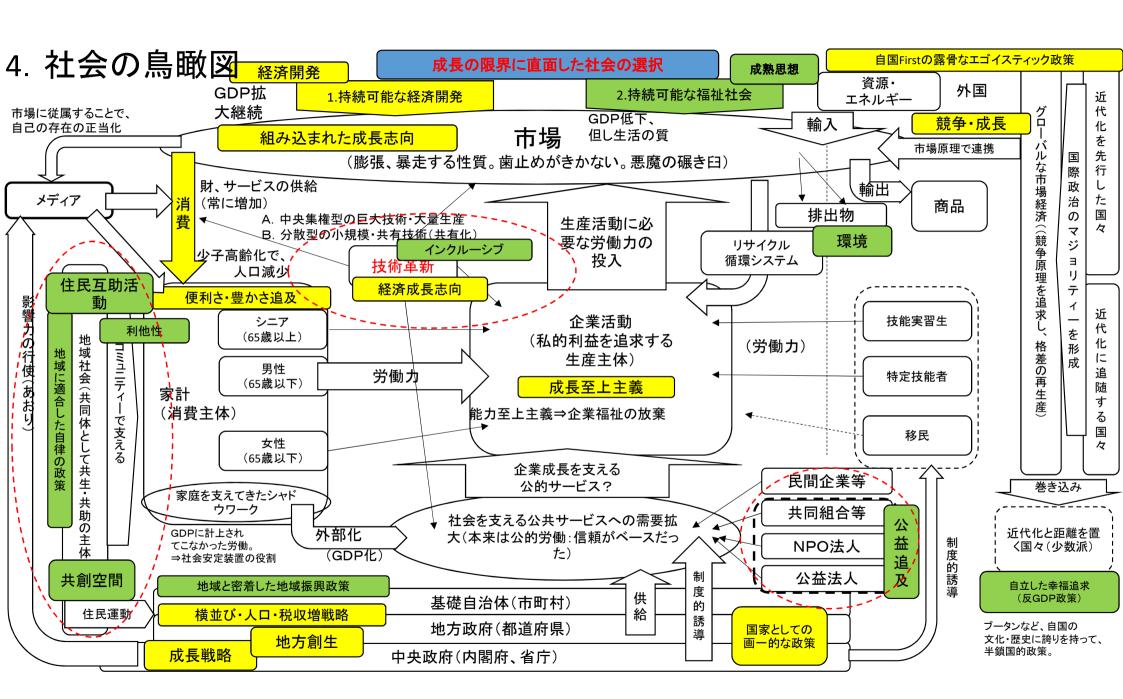
社会が分断し、社会関係財、社会的共通資本が 崩壊(弱体化)しているが、自然環境は自律的 に再生産。

弱しい

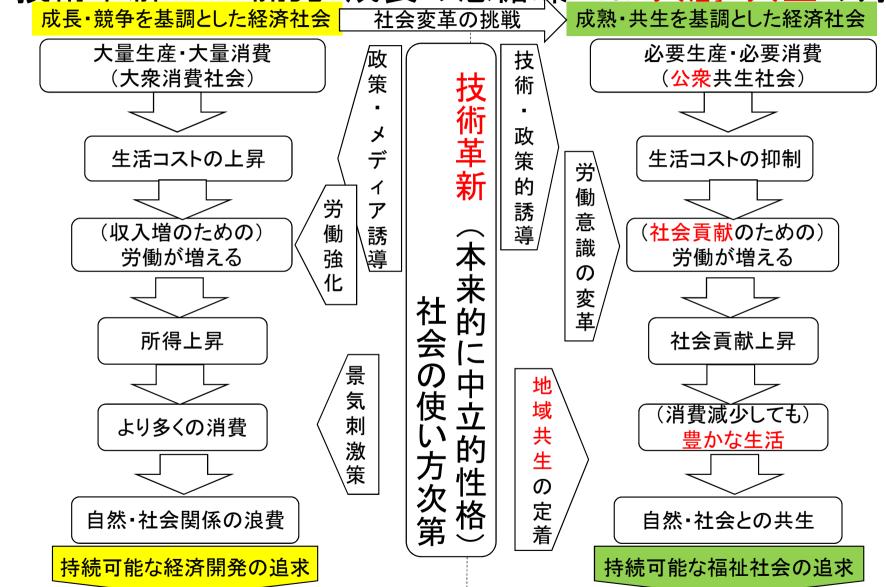


3. 労働力市場の肥大化は、社会が抱える問題を解決して行くのだろうか?

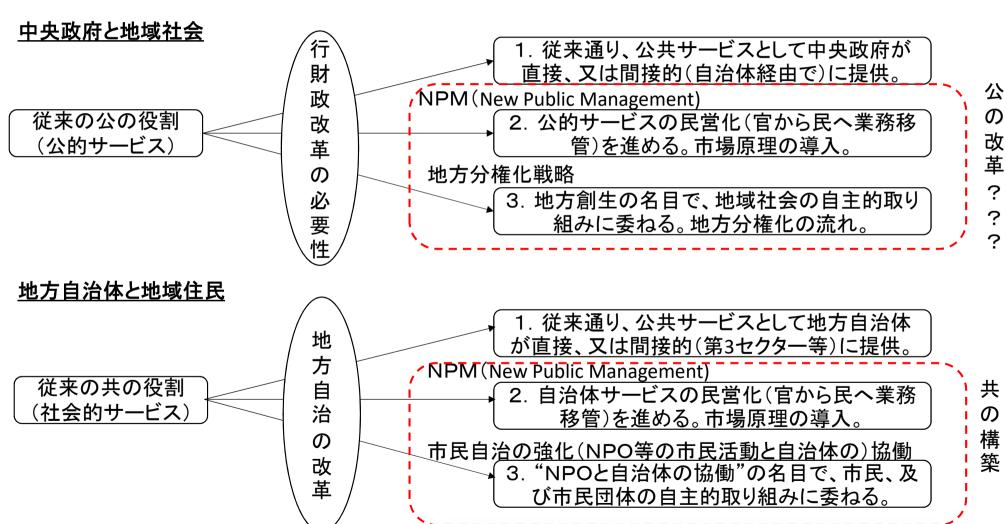




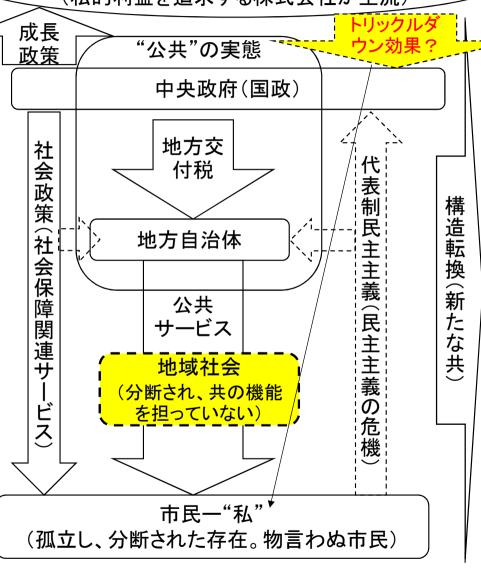
5. 技術革新 ⇒ 開発・成長の悪循環 vs. 共創・共生の好循環



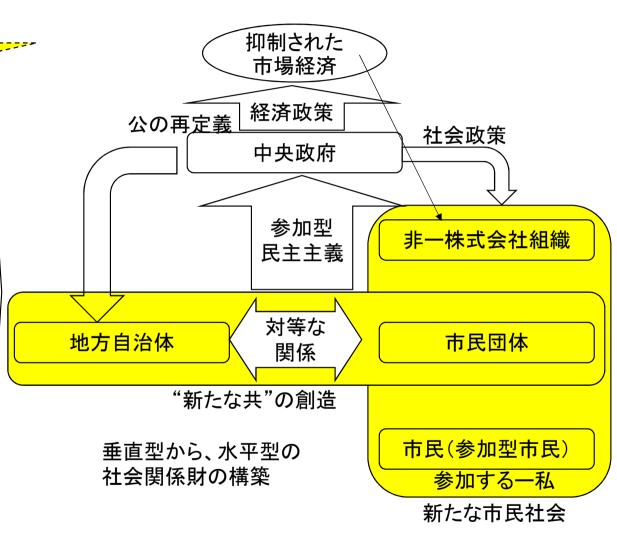
6. 公共の改革(1. 官から民へ、2. 地方分権化、3. 市民活動の取り込み)



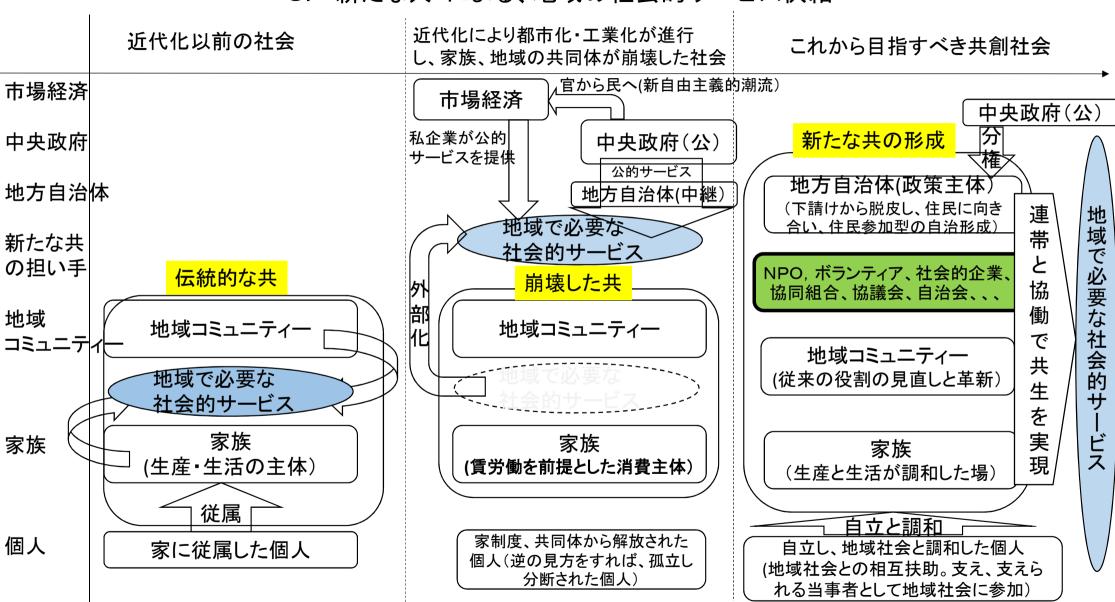
巨大な市場経済 (私的利益を追求する株式会社が主流)



"新たな共"



8. "新たな共"による、地域の社会的サービス供給



公益 (私益と共益が調和した状 態でのみ、実現可能。)

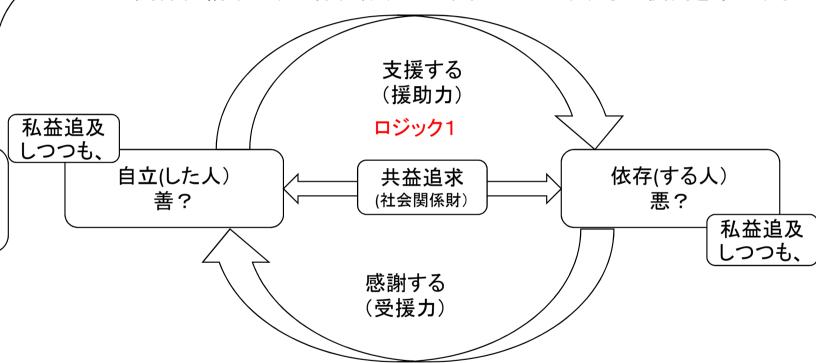
ロジック3

ここの地域社会の自律が国 民国家の目指す公益の実現 を可能たらしめる。

ロジック2 共同体連携

9. 自律とは? (相互扶助、互酬関係が成立した地域社会)

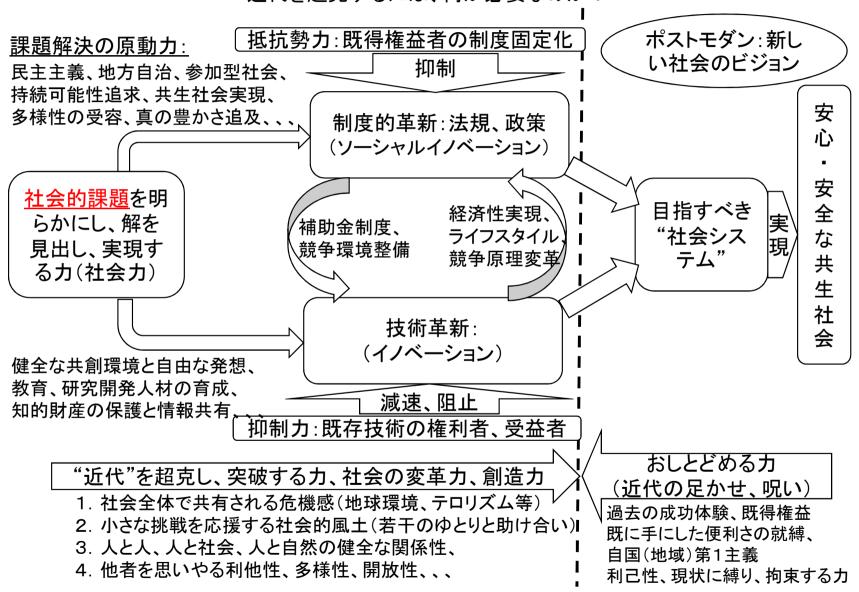
これらの関係性構築に、地縁組織、NPO, 社会的企業、等が役割を果たす。



地域社会を構成する個人、家族と地域社会が調和することで共同体の調和・発展が 維持される。その状態を自律した社会という。

そこには、行政、産業、生活が調和した社会。人間と自然とが調和した社会が存在する。

10. 近代とポスト近代の力学 近代を超克するには、何が必要なのか?



10-2. 近代とポスト近代の力学エネルギー問題をケースワークとして

再牛エネルギー 抵抗勢力:電力会社(大規模集中型火力) 課題解決の原動力: を主力とした分散 危険な原子力発電への警戒 抑制 型供給体制 石油等の化石燃料の価格高騰・不安定化、 埋蔵量の減少、有限性の認識、 制度的革新:法規、政策 安 中央集中型のメガ発電体制の脆弱性認識 (省エネ促進、再生エネル **1**[3 ギー、新電力会社、) エネルギー課題: 安 1974年サンシャイン計画 再生エネの 目指すべき 1999年自然エネルギー 供給効率革新、 原子力や、有限な化石燃 全 "エネル 07まで、シャープが太陽 料に依存したエネルギー な 2001年RPS(再工ネ調達割合基準制度) 電池生産世界1、| ギー供給シ 供給体制から、分散型の 住宅蓄電技術、 2009年余剰電力買い取り制度 共 安心、安全な再生可能工 ステム" 地産地消技術, 2012年FIT(固定価格買い取り制度) 生 ネルギー供給体制移行。 2015年第4次エネルギー基本計画 ブロックチェージ 再生エネを主力に 社 エネルギー技術革新: した、地産地消型 (再生エネルギーの主力化、 安心・安全なクリーンエネルギー技術 のエネルギー供給 分散型電力、IT活用、) 災害に強い電力供給体制 体制 小規模・分散型エネルギー供給技術の開発 減速、阻止 スタートアップ企業でも参入可能な技術体系 抑制力:既に原子力、火力を中心とし 経済性の観点からも再生エネ おしとどめる力 の優位性証明、、、、 た大規模集中型の電力システム (エネルギーシフトの "新エネルギー供給体制"を構築する突破する力 足かせ、呪い) 1. 原子力政策・技術に対する、国民の不信感 2. 現在のエネルギー供給体制の災害時の脆弱性露呈 大企業によって確立した中央集中

型の巨大エネルギー供給システム。

3. 再生エネによって持続可能な社会を目指す国民世論

4. スタートアップ企業の参入、電力自由化のような参入障壁の低下傾向

10-3. 近代とポスト近代の力学 地域開発をケースワークとして

里山資本主義から学ぶ 抵抗勢力:縦割りの中央省庁 課題解決の原動力: 分散型社会形成 首都圏の都市機能の限界に対する危機感 抑制 (多様な地域社会 自治体レベルでの災害対策 の自立) 若者の意識改革(地方再発見) 制度的革新:法規、政策 地域住民主導の地域再生チャレンジ 安 (地域社会の自立、持続可 1[] 能な発展モデル支援) 地域社会の課題: 安 全国総合開発計画 ITによる地域開発 大都市集中、地方都 目指すべき 地方の時代 全 分散管理技術 市の凋落、農村社会 地方分権法 スタートアップの地方分散 "地域社会 な の疲弊、過疎化。少 地域創生省創設 再生エネの地産地消 子高齢化の進行。 共 生 地域資源を活用し 地域社会の技術革新: た、独自性のある、 社 地域資源の発掘 (ITを活用、分散型社会を可能 多様性のある地域 会 ITで働き方改革を実現(サテライトオフィース)にする小規模技術体系の開発) 社会の創造。 ITで地場産業の活性化 減速、阻止 地域社会がスタートアップ企業 を受け入れる風土 抑制力:地方は大都市に劣っているとする、 おしとどめる力 誤った先入観が技術開発を阻害。 (エネルギーシフトの "中央集中から地方分散"を実現するする突破する力 足かせ、呪い) 1. 地方自治体の財政的自立と、横並び行政からの脱皮 中央省庁の縦割り支配、 2. 地域資源を発掘し、地域固有の産業、地場産業育成、地元学の浸透し 大企業の大都市集中、 3. 地域住民の助け合い、共同体としての関係性構築 自治の無い地方自治体 4. 住民参加の自治体行政の挑戦 田舎コンプレックスの地方住民